

本科4年生から参加できる シンガポール国際交流プログラム

電気工学科 平井 誠

平成21年度に国際交流委員会が主体となり、英語学習に対する意識向上の一環として本科生を海外に派遣するプログラムを立ち上げた。このプログラムでは本科4年生が参加することで、帰国後の学生の意識の変化が学内でより広く波及することを目指している。平成21年度は、一般教科・金澤先生、情報工学科・松村先生そして私が本科生12名を引率した。以下にその時の写真および参加学生の感想の一部を示す。



プレゼン会場にてテマセク・ポリテクニクの友人達と

【情報工学科 尾上 紗野】

このプログラムには海外に興味がある人より、むしろ無い人のほうが参加する価値があると思いました。『何で英語って大切なのだろう?』と感じている人は、このプログラムに参加してみると良いと思います。英語の必要性を知ることができるとても素晴らしい機会です。

【情報工学科 北村 有佳理】

この国際交流プログラムでは、英語を勉強する必要性について理解できたというのが重要なポイントとして挙げられるのですが、それ以外に効果的な『参加型のプレゼン』とはどういうものかについて学べたことも自分にとって大きな糧となりました。

【情報工学科 林 慶】

シンガポールで学ぶ彼らのうち少なくない人数がシンガポールへの留学生であり、彼らは国籍だけでなく学科も異なる研究室で一緒に学んでいた。それを目の当たりにして交流を楽しむと同時に、日本人として一時的にしか参加できないことに危機感を抱きました。

以上のように学生達はこのプログラムを通して英語の必要性だけでなく、文化の違いや、世界における自分達の立ち位置等、短い期間で多くのことを感じ取ってくれた。そして平成22年度は電子制御工学科・福田先生、金澤先生、事務部の植山さんと私が引率し、全学科から本科生16名と専攻科生4名がシンガポールを訪問する。去年度以上に素晴らしいプログラムとなり、今後も継続していける様に教職員と学生が一丸となって準備を推し進めているので、変わらぬ温かいご支援を願いたい。最後に、本プログラムに関して多大なご尽力を頂いた冷水校長先生を始めとした教職員の皆様方に深く感謝の意を述べ文章を括る。

【物質化学工学科 水 井 佑太郎】

私はシンガポールの学生達の気持ちの豊かさや器の大きさ、オープンで前向きな考え方に衝撃を受けました。彼らは日本人と違った考え方を持っていてそれはとても素晴らしいことだと感じ、自分自身も見習うべき部分がたくさんあると素直に思えました。

『物質化学工学科 NMR更新しました!!』

物質化学工学科 亀井 稔之

『普段目にするものすべては化学物質です』といっても過言ではありません。プラスチックや、衣服を作る繊維、テレビやパソコン、電池もすべて化学物質でできています。また、少し気持ち悪いかもしれませんが、人間の体も分子の集合体であり、化学物質ということができます。それらの幅広い分野の研究を行うのが化学という学問です。

化学物質は目で見ただけでは、それが何者なのかはわかりません。そこで、様々な分析機器を用いて研究を進めます。物質化学工学科では、それら分析機器を一つの部屋にまとめ『機器分析室』として使用しています。

昨年度にNMR（核磁気共鳴装置）が最新機種に更新されました。これは、様々な有機化合物（主に炭素原子から構成される化合物）の分析に用いる機械です。昨年

ノーベル賞を受賞した鈴木先生、根岸先生も、日夜このNMRを使って研究しておられました。また、病院でお目にかかるMRIはNMRを医療用に改良したものです。

NMRのような最先端の分析機器は、通常の高校や工業高校にはありません。本校ではこのNMRを2年生の学生実験で使用していることが特色といえます。学生実験だけで全てを理解することは難しいようですが、概要を認識した後、4年生後半の研究室配属から本格的に使用し、理解を深めることができます。

分析機器は全般的に高価で、一気に更新することは非常に難しいです。しかしながら、毎年少しずつ更新、導入を行うことで、学生が最先端の分析機器にたくさん触れることができるように努力しています。

